

## 協会に事務局を置く団体

### 神奈川県消化器病医学会

本会は、県下の消化器病学に関する学術・技術の向上と関係者相互の親睦を図り、もって医道の昂揚と社会福祉に寄与することを目的として設置された神奈川県消化器病研究会の分科会の一つである。昭和34年神奈川県消化器病研究会として発足。その後名称を改めて県下の消化器病学の発展に貢献しつつ現在に至っている。

会の活動は春季の研究会、秋季の総会を中心に肝臓膵疾患研究会を加え定期的な活動を展開している。県下にある横浜市大、北里大、東海大、聖マリアンナ医大、昭和大(藤が丘)、帝京大(溝口)、日医大(第二)などの大学病院をはじめ公私立病院と地域医療とを結ぶ実践的な活動を行い、県下の消化器診療に果たす役割は大きくなっている。

当協会では51年から事務局を担当し、事務処理方法の改善、財政の確保に積極的に取り組むなど、会の発展に努めている。

なお、現在会員は個人会員518名、施設会員151施設と役員会員132名である。平成12年度の活動は次の通り。

#### 第45回研究会

日 時 12年6月17日(土) 13:00~

会 場 横須賀さいか屋

世話人 横須賀市立市民病院 村田 厚

内 容 一般演題34題

特別講演 「慢性肝炎・肝硬変—その病態と問題点」

日本大学医学部第3内科教授 荒川泰行先生

参加者 132名

#### 第33回総会

日 時 12年11月25日(土) 13:00~

会 場 横浜市市民文化会館(関内ホール)

世話人 聖マリアンナ医科大学消化器外科 山口 晋

内 容 一般演題22題

特別講演 「H. Pylori 除菌療法をめぐる最新話題」

独協医科大学越谷病院消化器内科教授

桑山 肇先生

ミニシンポジウム「診断に苦慮した胆管狭窄症例」

座長 横浜市立大学第2外科 渡会 伸治

聖マリアンナ医科大学消化器肝臓内科 鈴木通博

参加者 135名

#### 役 員(敬称略・50音順)

会 長	青木 誠孝	神奈川県予防医学協会
副会長	小泉 博義	神奈川県立がんセンター外科
"	南 康平	丹羽病院
幹 事	池 秀之	横浜市大市民総合医療センター外科
"	上野 文昭	大船中央病院内科
"	遠藤 徹	聖マリアンナ医大消化器内科
"	長田 信	大迫内科クリニック
"	勝又 伴栄	北里大学東病院内科
"	酒井 滋	帝京大学溝口病院外科
"	渋谷 明隆	北里大学東病院内科
"	島田 英雄	東海大外科
"	鈴木 亮一	横浜市立港湾病院内科
"	高橋 俊毅	国立相模原病院外科
"	田中 克明	横浜市大市民総合医療センター内科
"	玉井 拙夫	神奈川県立がんセンター消化器内科
"	田村 聡	田村医院
"	多羅尾和郎	神奈川県立がんセンター消化器内科
"	峯 徹哉	東海大消化器内科
"	与芝 真	昭和大藤が丘病院内科
監 事	岡部 伸彌	岡部医院
"	田中 昭平	横須賀市立市民病院

(事務局・青木 誠孝)

## 神奈川県消化器集団検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会(現：日本消化器集団検診学会)関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満19年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上と行政、医師会をはじめとする関係機関との連携強調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がんの検診の充実、発展を図ってきた。

当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

### 1. 協議会の開催

#### (1)第49回協議会(平成12年7月19日)

会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室

- ①平成11年度事業報告及び会計報告
- ②検診料金改定経緯について
- ③日本消化器集検学会及び関東甲信越地方会の近況について
- ④研修会について
- ⑤「胃集検・大腸集検の実態に関する調査」(消化器集検学会、全国集計委版)の本協議会集計について
- ⑥「健康日本21」県計画策定委員会の概況について
- ⑦その他

#### (2)第50回協議会(平成13年1月19日)

会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室

- ①平成12年度検診料金改定について(経過報告及び今後の対応)
- ②日本消化器集検学会及び関東甲信越地方会の近況について
- ③その他  
各検診機関より平成12年度の担当市町村の近況報告

### 2. 幹事会の開催

#### (1)第57回幹事会(平成12年6月20日)

会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室

- ①平成13年度向け検診料金改定案の検討
- ②研修会について
- ③その他(全国集計について)

#### (2)第58回幹事会(平成12年12月12日)

会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室

- ①平成13年度向け検診料金改定について(経過報告)
- ②研修会について
- ③その他(相談機関について)

#### (3)第59回幹事会(平成13年1月19日)

会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室

- ①第50回協議会の議題内容の確認

### 3. 研修会

日時：平成13年1月19日

会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室

テーマ：『健康日本21神奈川県計画(仮称)と健康診査』

講師：神奈川県 衛生部 地域保健課  
技官 柴田 則子先生

### 4. 講習会

#### (1)がん検診X線撮影従事者講習

日時：平成13年1月25日

会場：神奈川県総合医療会館 5階ナースセンター  
研修室

テーマ：

- ①「胃集検の課題について」  
講師 神奈川県労働衛生福祉協会  
理事 有森 正樹
- ②「CTで発見される微小肺がんの診断について」  
講師 神奈川県立がんセンター  
呼吸器科医長 山田耕三

主催 神奈川県福祉部高齢者保健福祉課

\* 共催機関

神奈川県消化器集団検診機関一次検診連絡協議会・(財)かながわ健康財団・がん対策推進本部

### 神奈川県消化器集団検診機関

#### 一次検診連絡協議会名簿

(敬称略・順不同)

横浜市立市民病院がん検診センター所長	今村 清子
川崎市がん検診センター所長	稲垣 徹
(財)逗葉地域医療センター施設長	田中 昭平
(医)松英会 総合健診事業部理事長	寺門 運雄
(財)財京浜保健衛生協会理事長	矢作 忠政
(医)倉田会 くらた病院健康管理室主任	千葉 仁一
神奈川県厚生農業協同組合連合会常務理事	門倉 光重
(財)神奈川県労働衛生福祉協会会長	角田 昭夫
(財)結核予防会神奈川県支部専務理事	吉田 英男
(財)神奈川県予防医学協会理事長	土屋 尚
神奈川県立厚木病院病院長	岡部 武史
(医)社団相和会産業健診事業部理事長	土屋 章
(医)藤順会藤沢総合健診センター理事長	石井 敏之

#### 相談機関

神奈川県福祉部高齢者保健福祉課課長	杉山 嘉男
神奈川県医師会理事	石井 出
神奈川県医師会理事	内田 健夫
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会技師長	村西 久幸
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会常任世話人	坪井 晟

(平成13年8月20日現在)

(事務局・熊沢 英明)

## 神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師を養成し、その技術の向上を図るとともに、関係者相互の親睦を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、4月に聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の、生沢啓芳医師の世話により、横浜市健康福祉センターホールで行われた。

今回は研究会と共催で、メーカー3社によるセミナーを開催した。193名の出席があり継続して実施してほしいとの要望が多く、今後の検討課題となった。

特別講演では、オリンパス光学工業の鈴木明氏による「最新の内視鏡と今後の展望」の講演があり、またパネルディスカッションでは「消毒洗浄のガイドライン遵守への道」が行われた。

特別講演は、興味ある内容で楽しく聞かれ、パネルディスカッションは現場でいつも検討が繰り返されており他施設の情報は大変参考になることなので、熱心に討議された。

内視鏡に携わるものの専門知識の獲得や技術を向上させるために、この研究会を今後とも発展させていきたい。

### 最近の活動状況

第21回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日時 平成13年4月15日(日)

会場 横浜市健康福祉センター

技師世話人 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
内視鏡部 佐伯 美奈

内容

一般演題 8題

特別講演 「最新の内視鏡と今後の展望」

パネルディスカッション

「消毒洗浄のガイドライン遵守への道」

入場者 255名

内視鏡コメディカルセミナー 機器取り扱い他

顧問 (五十音順)

青木 誠孝 神奈川県予防医学協会

草刈 幸次 聖マリアンナ医科大学内科

小泉 博義 神奈川県立がんセンター

比企 能樹 湘南東部総合病院

藤田 力也 昭和大学藤が丘病院消化器内科

三輪 剛 東海大学医学部内科

山川 達郎 帝京大学溝口病院外科

役員

青地 広美 横浜市立大学

片野早江子 聖マリアンナ医科大学病院

上條のり子 昭和大学藤が丘病院

木下千万子 淵野辺病院

木下美智子 横須賀共済病院

佐藤 和夫 神奈川県労働福祉協会

佐伯 美奈 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

菅原ゆかり 松島クリニック

瀬戸 道雄 青木医院

谷合 幸乃 横浜市立港湾病院

納所けい子 神奈川県予防医学協会

花木由香里 東海大学病院

藤井あずさ 丹羽病院

藤田 賢一 帝京大学溝口病院

藤森 弘樹 昭和大学藤が丘病院

松橋 妙子 国際親善病院

三浦 美保 北里大学東病院

横山美智代 東海大学病院

(事務局・納所けい子)

## 横浜市乳がん検診協議会

横浜市の乳がん検診は、昭和55年11月より開始された。

本会は検診体制の整備、改善などの精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため、専門的な立場から調査、審議を行うことを目的として昭和56年7月18日に設立された。

当協会は発足当初より、事務局を引き受けている。12年度の活動は以下の通り。

### 第1回幹事会(12年10月27日)

(1)11年度検診実施状況報告

(2)乳がん検診の有り方小委員会設置について

(3)11年度報告書作成担当機関について

### 第2回幹事会(13年3月15日)

(1)乳がん検診の有り方小委員会活動報告

(2)11、12年度検診実施状況報告

### 協議会(13年3月28日)

(1)11、12年度検診実施状況報告

(2)新年度計画について

(3)乳がん検診の有り方小委員会活動報告

(4)学会報告

その他

『平成11年度横浜市乳癌検診報告書』発刊

平成12年日本乳癌検診学会にて発表

### 横浜市乳がん検診協議会幹事・委員

(敬称略・順不同・平成13年3月28日現在)

会長	土屋 周二	横浜市立大学医学部名誉教授
幹事	仲吉 昭夫	昭和大学藤が丘病院外科教授
	高梨 吉則	横浜市立大学医学部外科学第一講座教授
	嶋田 紘	横浜市立大学医学部外科学第二講座教授
	福田 譲	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科助教授
	須田 嵩	済生会横浜市南部病院外科部長
	渡邊 哲	横浜市衛生局保健部長
	田村 暢男	神奈川県予防医学協会理事・専門委員
委員	利野 靖	横浜市立大学医学部外科学第一講座講師
	石川 孝	横浜市立大学医学部外科学第二講座助手
	渡辺 弘	聖マリアンナ医科大学名誉教授
	石田 和夫	北里大学病院外科講師
	福島 恒男	横浜市民病院外科部長
	吉田 悟	横浜市立港湾病院外科部長
	清水 哲	横浜南共済病院外科部長
	佐藤 博文	横浜栄共済病院外科部長
	大井田尚継	社会保険横浜中央病院外科部長
	高橋 利通	横浜掖済会病院外科部長
	石塚 眞一	横浜勤労者福祉協会汐田病院副院長・外科部長
	石川 廣記	神奈川県警友会けいゆう病院外科部長
	上妻 達也	横浜船員保険病院外科部長
	山中 研	横浜赤十字病院外科部長
	西山 潔	国立横浜病院外科医長
	田村 功	藤沢湘南台病院外科
	桜井 修	横浜旭中央病院外科
	石川 秀一	横浜市衛生局健康増進課長
	土屋 尚	神奈川県予防医学協会理事長

(事務局・栗原 博)

## 乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始された。53年以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会(会長＝渡辺弘・聖マリアンナ医科大学名誉教授)の技術指導のもとに協会が委託を受け実施した。

その後昭和62年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、当協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会(会長＝渡辺弘・同上)」が新たに発足し、検診の実務が遂行されている。

同連絡会は「県成人病管理指導協議会乳がん部会(部長＝渡辺弘・同上、事務局＝県福祉部)」の指導のもと検診の精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため設置されている。

### 乳がん集団検診協力医療機関

(敬称略・順不同・平成13年7月1日現在)

会長 渡辺 弘 聖マリアンナ医科大学名誉教授

医療機関名	代表医師名
横浜市立大学医学部(第一外科)	利野 靖
横浜市立大学医学部(第二外科)	石川 孝
横浜船員保険病院	上妻 達也
横浜市港湾病院	吉田 悟
横浜赤十字病院	山中 研
昭和大学藤が丘病院	仲吉 昭夫
横浜南共済病院	清水 哲
日本医科大学付属第二病院	家所 良夫
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
横須賀共済病院	細井 英雄
藤沢市民病院	小林 俊介
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	石田 和夫
国立相模原病院	秋山 憲義
平塚共済病院	片山 清文
杏雲堂平塚病院	溝田 成
小田原市立病院	福田 淳
山近記念総合病院	杉田 輝地
西湘病院	原 俊介
秦野赤十字病院	鈴木 弘治
東海大学病院	田島 知郎
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	中崎 久雄
神奈川県立足柄上病院	堀口 一弘

(事務局・熊沢英明)

## 神奈川県健康管理機関協議会

昭和56年に神奈川県労働基準局労働衛生課の指導の下で、県内で労働衛生に携わっている機関のうち、中小企業労働者健康管理事業助成制度の名簿掲載機関18機関が参加して自主的に発足した。

平成12年度の会員機関は19機関で、企業の健康管理を側面から支援するために、より質の高いサービスを提供すると共に、労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的に運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に開催してきた。

### 平成12年度活動状況

#### 第1回協議会(平成12年8月29日)

- 議題 1 ①12年度労働衛生行政の重点について  
 神奈川県労働局 蒲谷竹美労働衛生課長  
 ②神奈川県労働基準局からの連絡事項  
 神奈川県労働局 高橋俊一主任衛生専門官  
 2 各機関からの情報交換

#### 第2回協議会(平成13年2月20日)

- 議題 1 神奈川県労働局からの連絡事項  
 神奈川県労働局 蒲谷竹美労働衛生課長  
 神奈川県労働局 高橋俊一主任衛生専門官  
 2 講演『職域における健康情報の取り扱い』  
 講師 NKKK京浜保健センター  
 センター長 堀江 正知先生

### 機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (財)ヘルス・サイエンス・センター  
(財)京浜保健衛生協会
- (財)結核予防会 神奈川県支部  
(財)全日本労働福祉協会  
(財)日本予防医学協会 東日本支部
- (財)労働医学協会 川崎南クリニック  
(財)労働衛生協会  
労働福祉事業団 関東労災病院健康管理センター  
労働福祉事業団 東京労災病院健康診断センター  
(財)労働科学研究所  
(医)社団 日健会 日健クリニック  
(医)社団 相和会  
(社)衛生文化協会 城西病院  
労働福祉事業団 横浜労災病院  
海外勤務健康管理センター  
(財)逗葉地域医療センター  
神奈川県厚生農業協同組合連合会 健康管理センター  
(財)産業保健研究財団 神奈川診療所  
(事務局・根本 克幸)

## 神奈川健康保持増進サービス 機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、県下で活動している中央労働災害防止協会認定の健康保持増進サービス機関および健康保持指導機関で組織され、神奈川労働基準局の指導の下、平成2年12月に発足し自主的に運営されている。

急速な高齢化が進むわが国において、働く人の健康づくりを進めることの目的は、①健康で仕事に対する意欲を持った健全な労働力の確保であり、従業員にその能力を十分に発揮してもらう。②社会経済面からも職場の活性化に結び付け、医療費の抑制を目指す点にある。しかしながら長引く経済不況は、企業における健康管理に影響を及ぼしつつあり、その結果として健康づくり事業もここ数年停滞傾向にあるのが実態である。

このような状況に鑑み、厚生労働省では本年度より新たに「中小規模事業場健康づくり事業」を導入した。本事業は、中央労働災害防止協会に名簿登録した「労働者健康保持増進サービス機関・指導機関」がその実行を担い、事業に要する費用は原則として全額国が負担する。今後本事業がサービス機関・指導機関の果たすべき役割の指針となるものである。「中小規模事業場健康づくり事業」は、職場における総合的な健康保持増進対策として進められてきた「こころとからだの健康づくり（THP）」が大企業を中心に定着しつつある現状を踏まえ、その実施が未だ立ち遅れている中小規模事業場にその実施主体をシフトするものである。

同事業の骨格は、「経営者健康づくり体験セミナー」と「職場健康づくり支援サービス」で構成されている。

「経営者健康づくり体験セミナー」は、従業員数50名以下の企業の経営者またはこれに準ずる方を対象に、THPの体験を通じて企業内の健康づくりをご検討いただくための体験研修である。内容としては、健康指導をおこなうために必要な問診・生活状況調査・診察・医学的検査および運動機能検査としての健康測定、運動・メンタルヘルスケア・栄養・保健の各分野についての健康指導、健康指導をもとにしたウォーキングなどの実践活動で構成される。

「職場健康づくり支援サービス」は、従業員300名以下で対象者の定期健康診断結果を当該事業に活用できるTHP導入に積極的な事業所を対象とする。内容としては、上記の測定・指導および活動を3年間実施に加え、初年度に担当者研修なども含まれる。

### <平成12年度活動状況>

本年度は、健康づくり事業の普及拡大と働く人の健康づくり神奈川大会への協賛が活動の中心となった。

#### 「2001働く人の健康づくり神奈川大会」

(13年2月16日)

(事務局・北見 護)

## 肺疾患検討会

第1回は昭和56年9月で以来、隔月(奇数月の第4火曜日が原則)に年5回開催している。内科、外科、放射線科、病理等の医師による症例検討会である。開催場所は神奈川県予防医学協会7階のCT読影室で午後6時30分より2時間を予定している。

### 第94回(平成12年4月11日)

横浜市立大学附属市民総合医療センターの呼吸器内科教授に松瀬 健先生が就任されたのを機に特別講演を企画した。演題は「嚥下機能と誤飲性肺疾患の病態と治療」。

### 第95回(平成12年5月30日)

横須賀共済病院呼吸器科 諸星隆夫先生  
呈示症例は「人工気胸後の悪性リンパ腫」「低肺機能と肺癌手術の問題例2例」。

### 第96回(平成12年9月26日)

横浜市民病院胸部外科 加瀬昌夫先生、山形達史先生。呈示症例「気管気管支の狭窄に対してDumon's tubeを使用した症例(良性狭窄1例、腺癌1例、扁平上皮癌1例)。

### 第97回(平成12年11月28日)

県立がんセンター 呼吸器外科 中山治彦先生、伊藤宏之先生。呈示症例「喀痰細胞診でclass V(扁平上皮癌)と診断されるも画像・気管支鏡上で腫瘍の発見が困難であった1例」。「小型円形腫瘍の4例」。

県立循環器呼吸器病センター内科 小倉高志先生。  
呈示症例「20歳女性の透析肺(異所性石灰化)の1例。」

### 第98回(平成13年1月30日)

茅ヶ崎市立病院内科 瀧井孝敏先生、樋口晃先生。  
呈示症例「巨大な右扁平上皮癌」「リンパ管炎を起こした左S<sub>6</sub>の肺癌」「妊娠を契機として増悪したMAC症例の手術の可能性について」「転移と考えた左上肺野腫瘍の切除とCEAの推移及び副腎の肺瘤影について今後の治療」

### 第99回(平成13年3月13日)

神奈川県予防医学協会中央診療所、田中利彦先生。  
呈示症例「ヘリカルCTにて発見した病巣」。

(事務局・井出 研)

## 神奈川県微小肺がん研究会

本会はヘリカルCTによる肺検診に携わる人達が交流を深め、その撮影条件や読影基準の統一を図るため平成12年3月に発足した。活動内容としては年4回研究集会を開催している。最近の研究集会では13年6月に第6回研究集会が開催され、30名ほどの医師を中心とする医療関係者が集まり、症例検討会では活発なディスカッションが行われた。またこの第6回研究集会から新しく30分ほど時間をとって教育講演を行うことにした。今回は演題を「MDCT(マルチディテクトCT)について」として聖マリアンナ医科大学の中島康男教授に講演して頂き、多数の症例を交えてMDCTという現在最先端の技術を紹介して頂いた。この教育講演は次回からも続けていく予定である。また第6回開催時には本会の幹事として新しく5名の医師に就任した頂き、本会がますます発展していく事を目指している。

### 最近の活動状況

第6回 神奈川県微小肺がん研究会集会開催

日時 平成13年6月14日

会場 神奈川県予防医学協会2階役員室

内容 症例検討会 症例4題  
教育講演「MDCTについて」  
聖マリアンナ医科大学病院  
中島 康男教授  
参加者32名

### 役員(敬称略・五十音順)

顧問	金子 昌弘	国立がんセンター
代表	田中 利彦	神奈川県予防医学協会
幹事	井出 研	神奈川県予防医学協会
	小田切繁樹	県立循環器呼吸器病センター
	櫛橋 民生	横浜市北部病院(昭和大学)
	駒瀬 裕子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
	佐藤 雅史	日本医科大学附属第二病院放射線科
	庄司 晃	横浜市立大学附属病院(福浦)第一内科
	中島 康男	聖マリアンナ医科大学
	野田 和正	県立がんセンター
	萩原 明	神奈川県予防医学協会
	松崎 稔	神奈川県予防医学協会
	三浦傳太郎	横須賀共済病院
	宮沢 直人	平塚共済病院 外科・呼吸器外科
	山田 耕三	県立がんセンター

(事務局・香西 宏信)

## 禁煙、分煙活動を推進する 神奈川県議

### 設立の趣旨

健康被害の明白なリスクファクターである喫煙に対する関心の高まる中で禁煙、分煙指導は呼吸器疾患、循環器疾患、発がん予防などの観点から、極めて重要な課題となっている。

厚生労働省の発表によると、喫煙者の7割が禁煙を希望しながら、ニコチン依存症(薬物中毒)から脱皮できず、医療関係者等の助言・協力がないと挫折してしまう喫煙者が多いのが現状である。

また、「健康日本21」の目標では2010年までに、未成年者の喫煙率を0%に、喫煙が及ぼす健康被害や公共の場、職場における分煙の徹底をあげている。

このような状況の中で、医療現場のみならず広く学校、地域、職場等において、禁煙・分煙指導を中心とした、公益的な普及活動を推進するため「禁煙、分煙活動を推進する神奈川県議」が、平成11年11月5日設立発足した。

### 活動内容

- 1 禁煙教室、禁煙セミナーの企画・実施
- 2 講師の派遣
- 3 世界禁煙デー関連事業の開催
- 4 指導者教材の作成・整備
- 5 禁煙外来、指導を行っている医療機関等の情報収集・提供
- 6 指導者講習会・研究会の開催

### 1年間の活動(平成12年度)

禁煙講演会・禁煙セミナーの開催状況

- 1 生徒に対する指導
 

①小学校	1校	160名
②中学校	1校	450名
③高等学校	3校	1,080名
- 2 教育関係者
 

①先生	1回	340名
②PTA	1校	80名
- 3 企業等
 

①県職員	1回	100名
②病院	1回	30名
③管理者	1回	160名

### 役員(理事会)の構成

会長 五島雄一郎(東海大名誉教授)  
副会長 中山 脩郎(神奈川県内科医学会会長)  
副会長 渡辺古志郎(横浜市民病院副病院長)  
理事 17名(医師、歯科医師、医科大学、看護婦、予防医学協会、病院、医院、弁護士等)  
(事務局・伊藤 久史)

## 日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立され、本年で18年を迎えた。

現在、神奈川支部の会員は、自社4、機関31、指定1、委託3、の計39会員である。神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成12年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

### 会 議

- ① 総 会 1回
- ② 理 事 会 4回
- ③ 機関部会全体集会 1回
- ④ 技術専門委員会 11回

### 事 業

#### I. 第14回作業環境測定推進大会(12. 9. 8)

- (1) 講演
  - 事業場における化学物質管理  
神奈川労働局労働衛生専門官 炭竈 徹夫
  - 職場における有害環境因子に関する新しいILO  
コード  
NKK京浜保健センター長 堀江 正知
- (2) リフレッシュ体操  
(助)神奈川県予防医学協会 本田 結
- (3) 支部設立20周年記念講演  
労働衛生管理の今昔  
沼野労働安全衛生コンサルタント事務所長  
沼野 雄志
- (4) 永年表彰

#### II. 技術研修会

- (1) 第1回技術研修会(12. 6. 29)
  - 1)平成12年度の労働衛生行政の方針について  
神奈川労働局労働衛生課長 蒲谷 竹美
  - 2)粉じん測定におけるK値の変動について  
(株)ゼオン分析センター 井出 正
  - 3)ハイボリウムサンプラーを用いた粉じん測定  
について  
中央労働災害防止協会・  
関東安全衛生サービスセンター 山室 堅治

- (2) 第2回技術研修会(12. 10. 31)

施設見学会：安全衛生総合会館

- (3) 第3回技術研修会(13. 2. 9)

#### 1) 講演

サンプリングポンプの日常保守点検

(助)山梨労働衛生センター 望月 明彦

#### 2) 実習

サンプリングポンプの保守点検及び流量校正

柴田科学(株) 榎本 保典

日本カノマックス(株) 横山 辰巳

技術専門委員

#### III. 講習会

- (1) 作業環境測定士試験科目一部免除講習会  
(12. 5. 12)

### 役員・技術専門委員

	役 員	技術専門委員
支 部 長	岩滝 典正	芦田 敏文(県予防医学協会)
副支部長	渡辺 和夫	(オオスミ)
"	田中 直	岸 康博(日産自動車)
運営委員	井上 温	椎野 恭司(日本ビクター)
"	仲居 武司	仲居 武司(東芝)
"	松井英三郎	竹内猪佐夫(関東菱重興産)
"	井出 正	井出 正(ゼオン分析センター)
"		山室 堅治(中央労働災害防止協会)
監 事	西坂明比古	布川 典永(NKK)
"	望月 明彦	三枝 賢治(山梨労働衛生センター)
行 政	蒲谷 竹美	炭竈 徹夫(神奈川労働局)
		(事務局・芦田 敏文)

## 神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足25年目。各地区医師会、行政、大学医学部、病院、学校、検診機関が相互に連携し、地道な腎疾患対策を行ない、児童生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

### I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理除外となった者に対する追跡調査。
2. 学校現場と医療分野の連携を図るため、情報交換の会を実施した。
3. 全身性かつ多臓器疾患に伴う腎障害の検討。

### II 総会および研究会

平成12年9月9日(土) Lプラザ(神奈川県労働プラザ)  
講演

「21世紀での学校検尿を展望する」

講師 小児腎疾患総合管理研究所

所長 酒井 糾先生

### III 医師部会研究会

#### 1. 第28回研究会

平成12年7月15日(土) 神奈川県予防医学協会

テーマ「学校検尿における低補体血症患者及び膜性増殖性腎炎患者の動向調査」

講師 大和市立病院

副院長 飯高 喜久雄先生

#### 2. 第29回研究会

平成12年12月16日(土) 神奈川県予防医学協会

テーマ

「全身性かつ多臓器疾患に伴う腎障害の検討」

講師 聖マリアンナ医科大学

小児科教授 小坂橋 靖先生

### IV 知識普及活動

#### 1. 研究会機関誌「じん」発刊21・22合併号

2,500部

#### 2. 腎臓手帳

700冊販売

### 役員

(順不同・敬称略 13. 10. 1現在)

会長	酒井 糾	小児腎疾患総合管理研究所所長
名誉幹事	青山 松次	神奈川県医師会
〃	山田 卓男	横浜市医師会
〃	水原 春郎	聖マリアンナ医科大学名誉教授
幹事	飯高喜久雄	大和市立病院副院長
〃	飯野 繁則	横須賀市医師会学校保健常任委員
〃	石館 武夫	北里研究所メディカルセンター病院院長
〃	生駒 雅昭	聖マリアンナ医科大学小児科
〃	五十嵐すみ子	(株)メコム業務部長
〃	市川 家國	東海大学医学部小児科教授
〃	奥平 昌彦	茅ヶ崎中央病院レディスクリニック新生児科
〃	忍田 源一	相模原市医師会
〃	河西 紀昭	北里大学医学部客員教授・社会保険相模野病院院長
〃	川田 征一	東神クリニック
〃	川島 令子	横浜市西谷中学校
〃	神山 務	小田原医師会学校医部会
〃	木内 豊治	小田原市学校保健会顧問
〃	木村 泰雄	藤沢市医師会学校医部会
〃	小坂橋 靖	聖マリアンナ医科大学小児科教授
〃	小島 幸司	藤沢市医師会学校医部会
〃	佐藤 忠章	厚木市医師会
〃	佐藤千恵子	川崎市四谷小学校養護教諭
〃	比留川 勝	綾瀬市医師会
〃	杉田 暉道	神奈川県予防医学協会産業保健部
〃	鈴木 忠義	神奈川県立栄養短期大学学長
〃	竹中 道子	東京女子医科大学中央検査部非常勤講師
〃	高橋 久男	相模原市医師会
〃	塚本 信之	横浜市医師会学校医部会顧問
〃	寺島 和光	神奈川県立こども医療センター泌尿器科部長
〃	豊田 博史	川崎市医師会学校医部会副部長
〃	長坂 裕博	横浜市小児アレルギーセンター診療部長
〃	長洲 堯雄	鎌倉市医師会
〃	深沢 博史	神奈川県衛生部保健予防課長
〃	中務 紀	茅ヶ崎市医師会
〃	中野 猛夫	横須賀市医師会
〃	濱崎 祐子	東海大学大磯病院小児科
〃	藤原 芳人	横浜市医師会学校医部会常任幹事
〃	落 信久	神奈川県教育庁教育部保健体育課長
〃	松浦 信夫	北里大学医学部小児科教授
〃	山口 京子	川崎市教育委員会健康相談室
〃	安井 正子	神奈川県立金井高等学校
〃	柳川 荘一郎	横浜市医師会学校医部会幹事
〃	由井 史樹	川崎市医師会学校医部会幹事
〃	横田 俊平	横浜市立大学医学部小児科教授
〃	富永 孝	神奈川県医師会学校保健担当理事
監事	高橋 潤	横浜市教育委員会学校保健課長
〃	隅田 康之	川崎市教育委員会健康教育課長

(事務局・熊沢 英明)



## こうゆう会(高血圧性疾患予防友の会)

こうゆう会は、動脈硬化や高血圧性心血管障害(脳卒中・心筋梗塞)等の予防に関する知識を広め、会員の健康管理と親睦をはかることを目的として昭和52年11月1日に発足した。以来、横浜市立大学医学部第二内科出身の医師を含む24名の指導会員の指導のもと、当協会(栄養士・保健婦・トレーナーを含む)が事務局を担当してきた。

会の運営は会長の戸田弘一先生を中心に、会員代表により構成される幹事会と事務局が協力し、年間の行事計画・予算案を作成し、総会で決議・実施しており、高血圧予防に重点をおいた健康診断の実施や会報の発行、減塩を学ぶ会食、調理実習、散歩会、見学会、懇談会等、勉強に親睦に諸活動を楽しく展開してきた。

当時は高血圧学会も発足しておらず、神奈川県においても脳卒中半減対策のシステム作りがすすめられており、30歳以上の国民の4人に1人が高血圧、その半数が放置という状況で、高血圧は大きな問題であった。その中でこうゆう会は先駆的な活動を自主的に行ってきた。

こうゆう会は一時会員数も128名を数え、諸活動の参加者も多く、テレビや雑誌でも度々取り上げられたが、設立後23年が経過、会員数も40名弱と減り、年々、平均年齢も上がり73歳となって、自主的活動ができない状態となった。併せて会員の中からも、社会情勢にあわせて会の活動を「高血圧性疾患予防対策」のみでなく、「健やかに老いる」を視野に入れた生活習慣病予防の会に広げたいという希望が出てきた。

そこで数名の指導会員の意見を聞き、幾度か幹事会を開いて検討した結果、「こうゆう会」を発展的解消とする事に合意が得られ、平成12年度の総会(8月3日開催)をもって会を閉じることになった。

当協会では現在、自分自身で健康管理を実施している個人受診者を対象に、健康情報の提供、各種健康相談、健康づくり活動等を実施していく会員制組織をたちあげ、拡充しようとしている。

今後はその活動母体の核となるよう、こうゆう会は「金曜サロン」と名称を変え、毎月第2金曜日に定例会を開き、既存のわくわく講座とも連動して自主的に相互の交流をはかると共に、生活習慣病予防の啓発に、その活動範囲を広げていく予定である。

(事務局・真野 君子)

## 神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が、自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例研究会、夏期講習会などを実施している。

### 1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加者数

①②4月15日「いじめの四層構造」・26人、5月20日「薬物非行と性非行」・29人 村尾康弘・立正大学講師 ③6月17日「星と波テスト、バウムテスト」杉浦京子・日本医科大学助教授・28人 ④7月15日「学校のメンタルヘルス」鶴養啓子・昭和大学大学院助教授・30人 ⑤9月30日「ワルテック描画テスト」杉浦京子・日本医科大学助教授・31人 ⑥10月21日「真の健康と自己実現のためのホリスティックな人間観」平松園枝・サイコシンセシス研究会代表・24人 ⑦11月18日「エニアグラム 人を生かす九つの根源の力」後藤節子・国際エニアグラム・カレッジ ファシリテータ・15人 ⑧12月2日「コラージュ療法」杉浦京子・日本医科大学助教授・25人 ⑨⑩1月27日「現代の青少年の心理とその背景」・15人 2月17日「心理面接の基礎と保護者への対応」・27人 村尾康弘・立正大学講師 ⑪3月27日横浜市アレルギーセンター(施設見学)「アレルギー疾患に悩む子どものかかわり方や対応について」・26人

### 2. 第32回夏期講習会

日時：平成12年8月21日～23日

テーマ：「いのちを生きる」-心とこころの響きあい-

①21日 交流分析の基礎、心理的ゲームと防衛機制  
②22日 教育現場への交流分析応用、あなたの問題解決への取組み 杉田峰康・福岡県立大学・大学院教授  
③23日 育て直し、心の発達過程のメカニズム、症例からみた具体的な方法 渡辺久子慶応義塾大学医学部  
参加状況：延べ465名

### 会員状況(順不同、敬称略、平成13年3月31日現在)

小学校39名、中学校18名、高等学校21名、一般30名。計108名。

役員(順不同・敬称略。平成13年3月31日現在)

会長	山口 京子	川崎市教育委員会・健康相談室
副会長	藤沢 恵子	横浜市立岩崎小学校
幹事	小川 初代	横浜市立平沼小学校
〃	佐藤まゆみ	神奈川県立川和高等学校
〃	森田由美子	川崎市立住吉小学校
〃	金子 雅代	横浜市立権太坂小学校
〃	佐藤千恵子	川崎市立四谷小学校
〃	後藤 禮子	川崎市立久本小学校
〃	原 久子	川崎市立戸手小学校
〃	浅井 恵子	私立横浜中学校
〃	出浦 一成	
監事	坂井 悦子	横浜市立高田小学校
〃	中川 優子	藤沢市立片瀬中学校

(事務局・本田 結)